

iPad を用いた高齢がん患者に対する機能評価システムの構築 およびアプリ化のための体制整備

【代表者】 津端 由佳里 島根大学 医学部附属病院 呼吸器・化学療法内科 講師

【共同研究者】 松下 幸之助 島根大学 地域未来協創本部 教授
三瓶 まり 島根県立大学 看護栄養学部 教授

【研究の目的と内容】

増加し続ける高齢がん患者に対しては、各種ガイドライン等で高齢者機能評価 (Geriatric assessment; GA) の実施とそれに基づく多職種による介入が推奨されている。しかしながら、GA の我が国における普及率は低い。その主な原因は GA を簡便に実施するシステムがないこと、GA の日本人患者に対する有用性が明らかでないことが挙げられる。よって、GA を簡便に実施可能な iPad システムを構築することを目的として本プロジェクトを立案した。また、iPad システム構築後は、より広く GA システムを普及させるため手軽に GA が実施できるようアプリ化し、特許の申請を検討した。本プロジェクトの実施により、高齢がん患者に対する適正医療が推進され、過不足の無い治療の提供が期待されるとともに、島根県発の知財としても iPad システムの有効活用が可能と判断している。

【研究の成果 (本研究によって得られた知見、成果、論文、学会発表、外部資金への応募見込み等)】

本プロジェクトにより作成した iPad GA システムを用いて、現在、申請者を主任研究者として日本医療研究開発機構 (AMED) 革新的がん医療実用化研究事業 (領域 6-3) 高齢者のがんに関する臨床研究のサポートのもと、「高齢非小細胞肺癌患者の患者満足度に対する機能評価の有用性を検討するクラスターランダム化第 3 相比較臨床試験 ENSURE-GA STUDY (NEJ041/CS-Lung001)」を実施中である。2019 年 12 月から症例登録を開始し、2021 年 1 月 15 日現在国内計 82 施設参加、登録数 497 名 (登録予定数 1,020 名) と順調に進捗している。

また、本システムを WEB アプリとして特許申請すべく、令和 2 年 3 月 30 日に島根大学の知的財産審査委員会へ申請し、島根大学承継と決定した。今後、特許出願を進めて行く予定である。